

方專賣局の島崎氏の研究に據れば大なる樟樹は之れを板とし小なるものは丸太の儘製腦することも出來ます。而して之れが製腦の用に供したる板は全く樟の香氣がなくなるから後から之れに香氣を附することも極めて容易に出来るのであります。この研究にして完成致しましたならば、從來の如く貴重なる樟樹林を無駄にすることもなく製腦せし材を立派にこれを利用することも出來ますから、樟樹利用上一舉兩得の策であります。

以上の樟造林に關する卑見を述べまして疊中にも不拘永らく各位の御清聽を煩はしたることを感謝致す次第であります。

大阪市場に於ける南洋材に就て

大阪營林局 大西光之助

廣い意味で南洋材と申しますものは、近年漸く問題視される様になりました所のラワン、タンギール、アビトン等の俗に所謂ラワンと云ふ代表語で知られてゐますものの外、印度、シヤム、馬來半島、ジャワ、スマトラ、ボルネオ、フィリッピン、其他南洋諸島に産します所の所謂唐木の類をも包含させたものであるのであります。又、是等南洋材の中で唐木類の輸入は可なり古い歴史を持つてゐるのでありますが、一面、唐木類の用途は特殊であるといふ關係からも致しまして、今日、一般木材市場關係としての南洋材と申しますれば、寧ろ唐木類以外の南洋材即ちラワン及び之に相似た材を申す様でありますから、只今も、唐木類のことは暫く措き、俗にラワンと謂ふ語で代表されてゐます所の南

洋材に就きまして、本邦殊に阪神地方に於ける現況、就中其輸入の状況及び利用途の實際を極く簡單に申述べることに致したいと思ふのであります。従ひまして、只今から繰返します所の南洋材といふ言葉は、新様な意味で唐木類を除いた以外のものを指すものであると云ふことを豫め御承知願つて置きたいと思ひます。

扱て、第一は、輸入の現況であります。現在我國に輸入されてゐます所の所謂南洋材は、大體、南洋諸島中のフィリッピン群島産及びボルネオ島産の兩種で又大體此兩種に限られてゐるのであります。其沿革は極めて新しいものに屬するのであります。尤も、木煉瓦、電柱梲木乃至は鐵道枕木等の見本を致しまして以前直接に入荷したことはあり、或は又上海を經由して所謂上海チークなきを稱して從來若干輸入されたことはあつた様であります。所謂商品に致しまして多少纏つたものが内地へ遣入り出しましたのは近々大正十三年のことでありまして、爾來年を逐ふて急激な増加を致して夢つた様な次第で、なほ、大阪と東京は其輸入の中心をなしてゐるのであります。之を數字に就て申します。フィリッピン産材の方は、大正十三年は九本ばかりで約一萬石、大正十四年は九本三萬七千石、製品二千石、計約三萬九千石、越つて昭和二年は九本五萬石、製品八千石、計約五萬八千石、昭和三年は九本七萬石、製品八萬石、計約十五萬石と急激に増加致してゐるのであります。此内、九本に就きましては、其七〇%迄は大阪に、二〇%は東京、あとの一〇%は主として名古屋及び北陸方面に入荷されてをり、製品に就きましては、六〇%迄は横濱、殘四〇%は大阪税關通過と云ふことに大體の見當はなつてゐる様であります。又、ボルネオ産材の方は最近一ヶ年間の輸入量は約三萬石見當になつてゐる様であります。尚、我國に於きましての現在の南洋材の直接輸入業者は、フィリッピン産材の方は主として神戸市の比律賓木材株式會社、ボルネオ産材の方は播州相生町の播磨造船工場の製材部であります。三井物産

でも、最近若干フィリッピン材の直接輸入を試みる様になつた様でありますから、以上申述べました輸入の趨勢から見ますと、昭和四年即ち本年中の南洋材の輸入量は、恐らくは優に二十萬石を突破するであらうと豫想されるのであります。

更に、南洋材の輸入状況を樹種及び材種別に概観してみますと、材種關係に於きましてはボルネオ島産のものは全部丸太でありますが、フィリッピン産のものは、丸太、板子及びストリップス（床板の荒木取）の三つの形で這入つてゐるのであります。勿論年によつて相異はありますが、大體此内、板子は五五%を占め、四三%は丸太、あとの二%はストリップスに云ふことになつてゐる様であります。

樹種の關係に就きましては、現在我國に這入つてゐますものゝ内で、フィリッピン産のものには、普通、ホワイトラワン、レッドラワン、タンギール、アビトン、マヤビス等數種のものがあり、又、ボルネオ産のものでは、トンブドロー、コーワ、ニヤト、ハロー、ランボン、バンキライ等數種のものであるのでありますが（尤もフィリッピン産の赤ラワンとボルネオ産のアビトンとボルネオ産のトンブドロー及びコーワは同種のものであるといふ様に、ボルネオ産のものとは異つて植物學上の種類を同じくしてゐるものは少くないのであります。）中てフィリッピン産のものに付ては、丸太の方で申しますと赤ラワン及びタンギールは其六〇%を占め、白ラワン三〇%、アビトン一〇%に云ふことになつて居り、板子では赤ラワン及びタンギール六五%、白ラワン三五%に云ふことに大體なつてゐる様であります。ボルネオ産のものは、現在に於きましては播磨造船工場の製材部で一手に製材され、主として紡績工場、學校、會社等のフローリング、及び電柱梔木等として利用されて居りまして、之に適する或は適しないに云ふ關係から、フローリングとして適するトンブドローは輸入量の六〇%を占め、梔木として適するコーワは三〇%、あとの一〇

は挽材、板材、床板等として利用されつゝあるニヤト、ハロー、ランボン等があるのであります。

第二に、南洋材の利用途に就て申上げます。

現在我國で利用されてゐます所の南洋材の多くは、植物學上龍腦香科に屬するもので、且つ、シヨレア即ち娑羅双樹屬のものは一等多いのであります。材質は唐木類の様には硬く且つ重くはなく、大體本邦產のセン、カツラ等によく似てゐるのでありますが、今日では西洋建築材を始め致しまして、室内裝飾、洋家具、指物、船室用具其他總ゆる方面に利用され、先づ建築用材に致しましては、天井板、床板、羽目板、トコ板、窓框、階段、敷居等として利用されてをりまして、天井板としては白ラワン（福山市の久徳板は好適例）、床板としてはボルネオ產のトンブドー及びフィリッピン產のナビトンが用ゐられ、羽目板其他化粧用材としては赤ラワン及びタンギールが用ゐられてゐる様であり、家具用材としては、一つは塗り上げが美しいといふこの爲めもありまして、机、洋服簞笥其他各種の家具材として利用され、仕事が出来易くて且つ値段が安いといふ關係から、多く赤ラワンが用ゐられてゐる様であります。

更に、特殊の用途に致しましては、第一に電柱梲木（樺代用）を擧げることが出来るのでありますが、之にはアビトン又はボルネオ產のコーワが最適とせられて居りまして、主として値段の關係から、例へば長八尺の三寸五分角といふ様な大きな梲木材として南洋材が使用される様になります。次は樺代用としての鐵道枕木でありまして、之には多くはアビトンが使用され、之れも長大なものを必要とする橋梁乃至はポイント用枕木として主として利用されつゝある様であります。尚、最近、汽車、汽船、電車等の客室の羽目板又は窓櫺としても南洋材の利用がだん／＼に認められ、之にはタンギールが主として利用されてゐる様であり、又、造船用の盤木或は防舷用材としても、昨今トンブ

ボ、アビトン等が若干使用されてゐる様であります。

終りに一言致したいことは、例の虫害の關係であります。此の虫害に罹り易いのは、從來多く使用されましたラウンの邊材ださうでありまして、御承知の内地の檜材等をも侵します所のヒラタキクヒムシなどは其材を侵す蟲の主なるもので、蒸氣又は熱氣乾燥等によつて、之が豫防法に付ては昨今種々に試験されてゐる様であります。

之を要しまするに、以上申述べました特殊の利用途に就きましては、利用され出してから間のないことでもあります。實際に使用して見た結果としての成績が判然としてゐる譯ではありませんし、南洋材の利用に付ては、今後種々に考へられて行くことは思はれますが、何れに致しましても、所謂南洋材の輸入が内地潤葉樹の利用上相當重大な關係を有するものであることは、否むことの出来ない事實でありまして、殊に價格は比較的低廉であり且つ材は長大で産地の供給力は十分豊富であるといふこと等の點から申しまして、今日としては相當注目を要する事柄であるを考へられるのであります。

尚、少くとも産地に於ける生産の狀況及材質の關係に付て今少しく詳しく申述べるべきであります。時間が制限もありますので是だけに致しておきます。